

## (8) 中筋中学校

学 校 長 田辺 長美  
校内研究代表者 宮本 教子

### 1. 研究主題

『 課題意識を持ち、主体的・対話的に学び合う生徒の育成 』

～小中の系統あるカリキュラム・授業づくり～

### 2. 主題設定の理由

本校では「主体的・対話的」な授業を目指し、これまで取組を行ってきた。取組の結果、ST (student teacher) がリーダーとなり授業を組み立てていく基本形が出来上がり、話し合う活動に積極的に取り組めるようになったといった一定の成果が得られた。しかし、生徒同士の深い思考・学び合いには至っておらず、教師が学び合いの方向付けを的確に行うことや、さらなるSTの活用について改善を図る必要がある。また、昨年度は中筋小学校と連携して系統あるカリキュラムづくりを行い、合同校内研修を通じて領域に関する小中職員同士の共通理解を深めることができた。しかし、領域以外の小中の教科間の連携も充実させる必要があると考え、今年度は「中学校組織力向上のための実践研究事業」を通して「教科の枠を越えた授業力向上のためのチーム会の体制づくり」を行い、「見方・考え方」を働かせた授業づくりを中心にSTを活用した授業づくりや小中の系統立てた取組を見直しさらに研究を深めていくこととし、上記の研究主題を設定した。

また、授業研究において「思考場面や観察場面において、各教科の特質や学年に応じた「見方・考え方」の視点を示せば、自ら考え、課題解決に取り組む子どもを育てることができるであろう。」という仮説を立て、チーム会での授業改善に向けた取組を行っていくこととした。

### 3. 研究の進め方と方法

- (1) 教科間連携による授業改善の取組
  - ・ 研究仮説に基づく授業改善の取組
  - ・ Student Teacher (ST) の活用
  - ・ チーム会 (教科間連携) による授業研究及び新学習指導要領の研修
  - ・ 講師招聘による研究授業 (各教科担当)
  - ・ 拠点校等の視察による研修と共有
- (2) 小学校からの系統立てたカリキュラムづくり、授業づくりの取組
  - ・ 小中合同校内研修 (二部会) における新学習指導要領の研修および総合的な学習の時間と教科の研究と実践
  - ・ 小中授業参観交流における教科の研究 (各学期)
- (3) 道徳の取組
  - ・ 年4回の全校道徳及び、TTによる授業づくり
  - ・ チーム会における指導案検討、模擬授業の実施・講師招聘による研究授業
  - ・ 四万十市・三原村道徳教育推進協議会授業発表会の実施
- (4) 組織力向上のための具体的な取組
  - 教科の枠を越えた授業力向上のためのチーム会の体制づくり
    - ・ 週1回のチーム会の実施 (火曜日)
    - ・ チーム会の相互の授業参観
    - ・ チーム会での情報交換・相談・協議 (気づきや些細なことの相談体制の確立)
  - 主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業づくり・授業改善

- ・ 教科の特質や学年に応じた授業づくり・授業改善の推進
- ・ ST(スチューデントティチャー:教科担当生徒)を活用した主体的・対話的な授業力の向上

#### 4. 研究の内容

##### (1) 教科の枠を越えた授業力向上のためのチーム会の体制づくり

###### ①週1回のチーム会の実施

チーム会を週時程(火曜日)に位置づけ、毎週1回のチーム会を実施した。学習指導要領解説の読み合わせをもとに、生徒につけたい力の共通理解を図った。

###### ②チーム会の相互の授業参観

参観の視点を焦点化し、教科の枠を越えたチーム会の相互の授業参観を行った。参観する日と時間を設定し、特に、まとめ振り返りを中心に参観することで、授業でつけたい力が明確かどうか、ねらいに迫れているかどうかを図り、授業改善に役立てられるようにした。

###### ③チーム会での情報交換・相談・協議

チーム会での情報交換や協議の内容、進捗状況について、管理職や研究主任、教務主任、チーム長で共有しチーム長やベテラン教員が中心となり、日常的な授業づくりや授業参観、協議から見えてくる課題等を相談・助言し合った。

##### (2) 主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業づくり・授業改善

###### ①教科の特質や学年に応じた授業づくり・授業改善の推進

学力調査などから見える課題をチームで共有し、授業づくりや協議の視点を統一した事前協議、公開授業、事後協議を行った。

指導案検討では、授業者があらかじめチームのメンバーに配付していた学習指導案と学習指導要領解説の該当箇所をもとに、授業のポイントや本時における共通の視点に関する授業づくりについて説明し、模擬授業や協議を行い、見方・考え方を働かせた授業づくりを進めた。

###### ②ST(スチューデントティチャー:教科担当生徒)を活用した主体的・対話的な授業力の向上

STの効果的な活用や見る視点・考える視点を示す授業などを共通の視点としてチームで授業づくりを行い、主に5教科を中心に、主体的・対話的な深い学びの授業に向けた授業改善を行った。

##### (3) 小学校からの系統立てたカリキュラムづくり、授業づくり

###### ①小中合同校内研修の実施

小中合同で、教科部会・領域部会(総合的な学習)の二部会をもち、9年間の取組の見直しを行った。教科部会では、小中の共通の課題である算数・数学科の図形領域における系統一覧表を作成し、小中を通してつけたい力を共有した。また、作成した系統一覧を活用し、小中で抑えさせたい図形に関する基本的用語や見方考え方を一覧にし、児童・生徒に見やすい表を作成し活用を行った。

領域部会(総合的な学習部会)では、昨年度作成した一覧表を活用し、小学校でつけた力を中学校でいかにつなげていくか、小中の活動のダブリや関連性はどうかといった話し合いを行った。兵庫県から石堂教諭や、四万十市生涯学習課の川村係長を講師として招き研修を行い、小中の関連性を踏まえ、小中互いの全体計画と地

学年	図形に関する用語・記号	図形・立体	図形・立体に関する事項
小1	さんかく しかく まる		たいら かわる かまねる うらがえす
小2	ちよう点 直線	三角形 正方形 長方形 直線三角形	かど
小3	中心 半径 直径	正三角形 二等辺三角形 直線二等辺三角形 円	球
小4	平行 対角線 面積	平行四辺形 正方形 長方形 菱形 台形 ひし形 直線二等辺三角形 等腰三角形 直角三角形 鋭角三角形 鈍角三角形 直角	交わる はば むがいたった角 直線で囲まれた
小5	合同 底面 側面 体積 底辺 高さ	多角形 五角形 角柱 円柱 三角錐 台形 ひし形の面積	角の和 変形する 組み合わせる 移動する
小6	対象の線、線対称、点対称、対象の中心、扇形、拡大図	円の内接、外接の円、円柱の体積、円錐の体積	縮尺、対応する点、むがいたった点、およびその面積
中1	直線AB、線分AB、半直線AB、平行移動、△、//、回転移動、回転の中心、∠、対称移動、対称の軸、垂線、上、中点、垂線、二等分線、互 AB、互 AB、角の二等分線、...	おう形、多面体、角錐、円錐、正多面体、回転体	接する、むしれの位置にある

域の財の見直しを図った。

② 小中授業交流の実施

共通の参観シートを作成し、参観の視点を決めて年間を通し小中の教員が互いの授業を参観し合い、小中の系統立てた授業づくりを意識するよう取り組んだ。

③ 児童・生徒交流の取組

昨年度に引き続き、小中合同運動会等の学校行事以外でも、児童・生徒の交流を活性化するため、児童会・生徒会が合同のあいさつ運動や中学生が小学生に読み聞かせを行う活動を各担当が連携し実施した。今年度は文化祭と子供フェスティバルや防災学習などを小中合同で実施し、地域とともに活動を行った。

(3) 道徳教育研究の実施

板書の記録やワークシート等の統一事項を全校で共有し、評価についても研修を行い、学年部で協力して評価を検討するなどの取組を行った。また、自分の考えを他学年にも知ってもらい、また他学年の多様な意見に触れることで他者理解・自己理解につなげ、道徳的価値の気付きを深めていきたいと、全校道徳を学期に1回取り組んだ。全員が作成した指導案を持ち寄り、検討し模擬授業を行った。また、夏休みと2学期には講師を招聘し研究授業を行い、10月の四万十市・三原村道徳教育推進協議会授業発表において成果を発表し、研修を深めることができた。

## 5. 今年度の成果と課題

(1) 成果

- 小中連携では具体的に算数数学と教科を絞ったことで、目に見える形で連携が進められた。また、参観交流を定期的に行うことで、小中校種の違いがある中で、互いの授業に取り入れられる気付きをもつことができた。領域では、総合的な学習の時間に絞ったことで、校内全員の意思統一が図られるようになってきた。
- チーム会を定期的に行い、教科間連携の取組を通して、教科を越えたねらいやつけたい力の理解が図られ、ねらいの明確化につながった。
- S Tの活用は自己有用感の高まりや、コミュニケーションや対話面でのスキルアップにつながっている。

(2) 課題

- ◆2学期末の授業力チェックシート（生徒用）結果では、「今学期の授業で学んだこと（方法等）は、他の学習や普段の生活でも使えると思う」と「相手や目的に応じて自分の考えと、その根拠を明確に整理し、表現することができた。」の2項目が他の項目に対して低い数値であった。学んだことの日常生活の活用や根拠を明確にして表現することの指導の改善が課題である。今後もチーム会で検討し取組を行っていく。
- ◆小中連携においては、算数・数学の一領域のみだけでなく、小中を通した「見方・考え方」の理解も含め、他の教科間の連携も充実させる。
- ◆S Tの活用については、各教科の特性や単元に応じた活用の仕方を、全教員で研究を深めていく必要がある。

1・2学期授業力チェックシート(生徒用)

